

令和2年度 自己評価・学校関係者評価書

令和3年3月2日
川崎幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- ・健康で明るい子
- ・努力と忍耐 がまん強い子
- ・自分で考え工夫してやりぬく子

2 本年度の重点課題

日々の保育や、子どもの変化・成長を保護者に伝えることができ、職員間では、保育の振り返りや情報の共有ができるように、保育の見える化に取り組む。

環境づくりとして、乳幼児の発達や一日の流れの連続性に配慮し、教育・保育を行う為の環境構成を工夫していく。また、自然な形で異年齢（幼児乳児）の関わりができるような工夫をする。

3 評価項目の達成及び取り組み

評価項目	結果	理由	関係者評価
保育の計画性	A	幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮しながら計画した。主に、コロナ対応での見直しが必要となり、何を大切にすべきかをより深く考え模索しながら、安心・安全に配慮した上で計画した。	A 今年度は、コロナの影響でいろいろと難しい年だった。苦勞され悩んだことと思う。そのような中でも、大切にすべきことを深く考え模索しながら、感染状況に応じた、安心・安全に配慮した計画がなされた。
保育の在り方	A	子ども達が安心して生活できるように、個を大切に、寄り添いながら過ごすことを心掛けた。スキンシップを多くしたり、話をよく聞いたり、基本的欲求が十分満たされるように関わった。	A 行事や活動を行う中で、短時間でも子ども達が十分楽しめるようなやり方で、良かった。スキンシップを多くしたり、話をよく聞いたりすることによって、基本的欲求が十分満たされる関りがされた。
保育者としての資質	A	保育者としての自覚を持ち、良識を持った行動を心掛けている。保育者の人間性が、子ども達に影響を与えていることを理解し、良い影響を与えられる保育者であることを意識し、笑顔で子どもや保護者に関わるようにしている。	A 年度当初、コロナの情報がない時、考えることが多くあったと思う。わからない中で考えることは、難しかったと思うが、後々、保育者にとっても幼稚園にとっても生きることがあると思う。
保護者への対応	B	保護者の気持ちに配慮しながら、丁寧に接するようにしている。送迎時に様子を伝えたり、必要な時には電話連絡で伝えたりしてきた。しかしながら、バス通園や会えなかった	B 今年度は特に、日々の様子を知りたいと思う保護者が多かったと思う。積極的に面談日に申し込む保護者もいれば、知りたいという気持ちはあるが申し込むには敷居が高いと感じる保護者

(保護者への対応)		<p>方々にとっては、参観等の機会がなくなり様子がわからないといった意見もあった。面談の機会を増やしたり、HP等でできるだけ伝えるようにしている。</p> <p>もいたと思う。HPで様子を知らせていることは知っているが、あまり見ていないのではないかと。「公開しました」とメールで知らせたらどうか。</p> <p>持ち物のお知らせを毎月のおたよりだけでなく、メールでも連絡があり助かっている。また、幼稚園の様子を知るのに、全体の写真のおたよりがあるが、子どもの学年やクラスの記事は少ししかないので、各クラスでの写真が載ったおたよりがあると嬉しい。</p>
地域の自然や地域との関わり	B	A
研修と研究	B	B
地域における子育て支援	A	A

結果の表示方法

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

コロナの影響による行事などの中止・変更があった中でも、保育の見える化として、日々の保育や子どもの成長を伝えられるように、お便りやHPで知らせるようにしてきた。乳児クラスでは、ホワイトボードに書いたり、写真等を載せたお便りを掲示したりして、保護者に送迎の際に見てもらえるようにした。幼児クラスでは、お便りだけでなく、面談の回数を増やし知らせるようにした。面談については、希望する方が決まってしまう、話ができずにいる保護者が多いのが現状なので、面談の持ち方等を検討したい。

環境づくりでは、クラスごとに保育室の中で製作コーナーなどを工夫したり、遊びによってスペースを確保したりすることで、子どもの遊びに応じた環境作りをしてきた。また、今年は、年長児が下の学年各クラスにお手紙を出し、遊戯室へ招待して遊ぶ活動を行い、異年齢で関わりながら、お祭りごっこを楽しむことができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の見える化	引き続き、保護者には、日々の保育、子どもの変化、成長を伝えていき、職員間では、保育の振り返りや情報の共有ができるように取り組む。
環境づくり	発達や一日の流れの連続性に配慮し、生活につながるような遊びや教育・保育を行う為の環境構成について工夫していく。 自然な形で異年齢（幼児乳児）の関わりができるような工夫をする。

6 学校関係者評価委員会

今年度は、学校関係者評価委員として園の様子を知る機会が少なく、評価をすることが大変難しい。もう少し項目が分れていたり、点数などで表されたりすると目で見てわかりやすく、評価がしやすい。コロナ禍で中止したこと、縮小したことについて、こう考えて決めたということを目に見えるように知らせることは大事。

当委員会においては、園の1年の取り組みと、この1年直接子ども・園と深くかかわってきた保護者委員の方から話を聞くことにより、園が未曾有の“大災害”新型コロナウイルス禍で絶対の安全を確保しながら、子どもたちのために今できる最善を目指して教育・保育を行ってきた事がよく分かった。日々の保育や子どもの成長を伝えられるように、お便りやHPで知らせるようにしてきた。乳児クラスの送迎時に見てもらえるように、ホワイトボードに書いたり、写真を載せたお便りを掲示したりした。幼児クラスはお便りだけでなく面談の回数を増やした。今後もより多くの保護者と面談できるよう検討すること。

保護者としては、今年度、参観会がなく、幼稚園に行く機会もなく、我が子から聞く友達は名前しかわからず、その友達の親との交流の場もなかった。参観会は形を変えてでもやってほしかったと思う。夕涼み会は、お楽しみ会として子ども達が盆踊りやゲームを楽しめるようにしてくれた。保護者会五役で考え、ゲームをする際に密にならないようゲーム用の道具を各クラスでできるよう用意した。運動会は、親子・卒園児・未就園児の競技、お弁当をなくし短時間だったが、楽しめた。早く終わっても「良かった」と思えた。

できないこともあったかもしれないが、良かったこともあったはず。これまで思ってもいなかったことが、状況が変わり当たり前になっていく。そういうことを伝えられたら良い。来年度以降、それらを生かした新しい過ごし方を考えていけるのではないかな。

今後、オンラインが当たり前になると思う。活用してもらいたい。ただ、職員がやろうと思うと大変。小学校では、地域で得意な方に活躍してもらっている。地域を巻き込んだ体制づくりができるとうい。